

燕労災病院の理念

働く人々と、地域の人々のために最善の医療を目指します。

病院の基本方針

安全で質の高い医療の提供を目ざします。

勤労者の健康管理を支援します。

医療に関する教育・研修を支援します。

地域の人々の健康を守り、福祉に寄与します。

目次:

*当院の課題と今後について	1
*平成24年度燕労災病院地域医療連携会議を開催しました	2
*市民勤労者医学講話・24年度予定表	3
*ケアマネージャーと燕労災病院の連携に関する懇話会を開催しました	3
*編集部より	3
*外来診療科別担当医師表	4
*腹腔鏡下手術とは?	

燕ろうさいつうしん

【 当院の課題と今後について 】

事務局長 飯塚 秀和



本年4月1日に事務局長として赴任してまいりました。よろしくお願いいたします。前任の労災病院は燕労災病院と同じような規模の病院でしたが、紹介率は20数%と低く、それに比べると当院は70%前後と大変高い紹介率となっています。これも開業医の先生方から患者さんを多く紹介していただいているおかげです。改めて感謝申し上げます。

さて、当院は現在、様々な課題を抱えております。既に新聞報道等でご承知のとおり、県央医療提供体制の再構築に向けた病院再編の検討にあたり、三条総合病院とともに協議に参画するよう要請されています。具体的な考え方については今後になりますが、労働者健康福祉機構本部とも相談の上、一定の方向性を示していくことになろうかと考えております。

こうした県央の動きとは別に、昨年4月に厚生労働省に設置された「国立病院・労災病院の在り方を考える検討会」が数回開催されました。本年2月に出された報告書では、多くの解決すべき問題があることから、国立病院機構・労働者健康福祉機構両法人の統合については当面は行われず、両法人間の連携方策をより強化することにより、法人統合を行う場合と同様の効果を目指していくこととされ、具体的には、医薬品・医療機器の共同購入、治験の共同実施、医学的知見・症例データの共有化などについて、少しずつですが、着実に実行されています。

ということで、労災病院の在り方についての検討は一段落と思ったのですが、そうは問屋が卸しませんで、当院を含む労働者健康福祉機構及び国立病院機構は病院に関しては基本的に診療報酬を中心とした自前収入で運営されており(よく誤解されていることですが、建物・機器を含め、一般の診療に対しての国の補助金は一切ありません)、他の独立行政法人とは異なることから、現在の独立行政法人から平成26年4月に新しい法人になることが閣議決定されました。そして、その法人の在り方を検討するために「国立病院及び労災病院の新しい法人制度に関する検討会」が設置されました。

どのような法人形態になるのかは今後の検討会での議論待ちで、現在のところ全くわかりませんが、どのようになろうとも当院は勤労者の方々や地域の皆様の医療を担っていくという姿勢は変わることはありません。引き続きの皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

【平成24年度燕労災病院地域医療連携会議を開催しました】

平成24年7月30日(月)午後7時から燕三条ワシントンホテルに於いて、当院主催による地域医療連携会議を開催しました。

この会議は、当院の医師等関係職員と登録医の先生方をはじめ患者さんを紹介していただいている地域の開業医の先生方とが、お互い顔の見える、よりスムーズな病診連携を図ることを目的に、平成18年から年1回開催しており、今回は、燕市・三条市・新潟市の3医師会から登録医ほか23名の先生方と、当院から医師18名、その他関係職員26名の計44名、合計67名が出席されました。

会議では、小方副院長による「B型肝炎訴訟」の講演、続いて、宮下院長による「新医師臨床研修制度発足後の研修医の動向」の講演が行われ、質疑応答の後、会議は終了しました。

会議後の意見・情報交換会では、燕市・三条市の両医師会長の挨拶に始まり、当院の新任医師5名が自己紹介を行うなど、登録医の先生方と当院の医師等関係職員が和やかに意見・情報の交換を行いました。



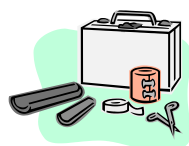
【市民・勤労者医学講話・24年度予定表】

開催場所は当院1階外来ホール、開始時間は各日の午後6時半からとなっております。

ご聴講は無料ですので、ぜひお越し下さい。

日付	演題	講演者
9月11日(火)	市民のための救急対応講座	新潟医療技術専門学校 麻酔科医 羽柴医師
11月13日(火)	薬の正しい飲み方について	薬剤部

都合により、講演者や演題の一部が変更になることがありますので、ご了承下さい。



【ケアマネージャーと燕労災病院の連携に関する懇話会を開催しました】

7月25日(水)午後5時半から当院会議室にて、当院在宅医療推進委員会主催による懇話会を開催しました。参加者は65名でした。

今回のテーマは「褥瘡に対する取り組み」で、宮下薫院長より開催挨拶後、2階東病棟看護師より「病棟と在宅の連携について 褥瘡事例を通して考える」、次に当院の皮膚・排泄認定看護師より「外来で関わった褥瘡事例について」、最後に燕福社会の相談事例部部長金子朋行氏より「褥瘡事例で利用できるサービスについて」紹介していただきました。参加者からは、褥瘡の事例に積極的に取り組んでいきたい。褥瘡予防への取り組みについて不明なことは当院の認定看護師へ相談したい。薬(軟膏)を使用した治療の流れ・知識が深まった、褥瘡予防のためのエアマットレス等の福祉機器の使用の大切さがわかったなど多くの意見が聞かれました。



【人間ドック等のご案内】

現在、日本は世界でも有数の長寿国となりましたが、一方で食生活の変化などにより生活習慣病(成人病)の増加が問題となっています。

生活習慣病とは、がん、脳出血、脳梗塞、心筋梗塞、高血圧症、脳動脈硬化症、糖尿病など老化に伴う病気で、発症初期の段階では自覚症状が少ないものが多く、痛みなどの症状が出てからでは手遅れになることも多いのです。

そこで当院では、皆様の病気の予防・早期発見・健康の維持増進など健康づくりのために定期的に下記のような人間ドックを行っておりますので、是非ご利用ください。

人間ドック(日帰り)コース...水曜日、木曜日に実施。
37,800円(消費税込み)

脳ドック(日帰り)コース...金曜日に実施。
50,400円(消費税込み)

各コースとも予約制ですので、医事課人間ドック係へお電話かご来院のうえお申込みください。



【編集部より】

今年の夏もとても暑かったですね。今年の夏は日本選手が活躍するロンドンオリンピック、県内の馴染みのあるスポーツ施設で開催された北信越かがやき総体、高校球児の甲子園と感動のドラマを観てまた更に熱く燃えた人もいることと思います。9月になってもまだまだ暑い日々が続きそうです。9月末にはもう一つ国内のスポーツ大会である国体が岐阜で開催されます。これもまた県内選手の活躍が楽しみです。(マツキヨ)

